

# 写真で建設業をPR



協会創立100年の記念イベントとなる

札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は15日まで、札幌市の札幌駅前通地下歩行空間で、「ただいま工事中!写真展」を開催している。協会の創立100年を記念し、会員企業が施工中の現場やそこで働く人たちが撮影したもの、高校生が撮影した建設現場の風景

札幌建設協「ただいま工事中!」  
きょうまで



などを紹介し、建設業を広く一般市民に知ってもらおうとPR活動が展開された。

主催者あいさつで、岩田会長は「写真展は100周年記念事業のそのキックオフとなる。会員企業からさまざまな写真の提供をいただき、人を中心に展示されているが、これを機会により建設業を理解してほしい」と話した。この後、岩田会長、北海道石狩振興局の小野塚修一局長、札幌市の吉岡亨副市長がテープカットした写真。

会場では、協会の会員会社20社が撮影した建設現場や北海道札幌南陵高校写真部、札幌工業高校土木科・建築科2年生らの若いフレッシュな視点の写真の合計180点を展示している。このほか、小学校高学年を対象にしたパワースョベル遊具の操作体験や橋梁架設工事の3D映像のバーチャル体験コーナーが設けられ、多くの人が建設業に触れ合い、仕事の内容を知る良い機会となった。15日は午後1時まで開催している。

「ただいま工事中!!写真展」始まる

札幌建設業協会が創立100周年記念イベントとして企画した「ただいま工事中!!写真展」が12日、札幌駅前通地下歩行空間で始まった。建設現場の最前線で働く人々の姿を180点のパネル写真にして展示。大勢の歩行者が足を止め、厳しい自然と向き合いながらまちづくりを担う建設業の役割を見詰めていた。15日まで。

最前線で働く姿知って  
札幌建協創立100周年イベント



多くの来場者が現場で働く人の姿を見詰めた

この歩行空間やビル、ダムなどを造り、除雪もしてくれる縁の下の力持ちという印象を強めた」と話していた。

岡亭札幌市副市長は「94万人と全国5位の都市に発展させてくれた」と感謝した。

パネル写真や、札幌建設業が企画監修した建設業のストーリー漫画「ただいま工事中!!」に見入っていた札幌市在住の高齢男性は「地味な仕事だが、中。橋梁架設現場を歩き回ったり、ビルの谷間をジェットコースターで走り抜ける気分が味わえる3D映像コーナーでは、大人が歓声を上げていた。

橋梁の3D映像を出展した二三北路(本社・札幌市北区)の熊谷一男社長は「安全教育の教材に使っている。特殊な工事ほど事前に危険度合いが分かり効果的」と進化する建設業をアピールしていた。

と誇りを切り取った。業を知るきっかけになれば」と話した。

岩田圭剛会長は「現場では膨大な写真を撮るが、今回はこれまで捉えることができなかった働く姿を撮っている。来場者が建設業を知ることにつながる」と話した。

岩田会長と共にテープカットした小野塚修一石狩振興局長は「地域経済を支えてくれる産」と雇用をPR。吉男性は「地味な仕事だが、

協が企画監修した建設業のストーリー漫画「ただいま工事中!!」に見入っていた札幌市在住の高齢男性は「地味な仕事だが、中。橋梁架設現場を歩き回ったり、ビルの谷間をジェットコースターで走り抜ける気分が味わえる3D映像コーナーでは、大人が歓声を上げていた。

### 札建協100周年記念事業

## 現場の1コマ市民を魅了

きょうまで「ただいま工事中」写真展



石狩振興局長、吉岡亨札幌市副市長が来賓として訪れ、岩田会長とともにテープカットで開会を祝った。写真Ⅱ。ブースには会員企業や高校生が工事現場で撮影した働く人たちの写真が飾られ、市民も足を止めて熱心に見入っていた。

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)主催による協会創立百周年記念事業「ただいま工事中」写真展が、十二日から、札幌駅前通地下歩行空間で始まった。初日は小野塚修一

写真展は、ことし様々な催しを企画する協会創立百周年記念事業のキックオフイベントとして行われた。会員企業八十一社を対象に、現場で働く人たちの写真を募集して集めた作品

を展示。会員以外にも札幌南陵高、札幌工業高の生徒も出品した。

開会式では岩田会長がいさづし、「札幌圏の皆さんに支えられ百周年を迎えることができた」と述べ、その感謝の念も含めリサイクルパウダーの贈呈や道庁赤れんが前のレンガ舗装など様々な事業を企画していると紹介。また、その企画の第一弾となる写真展を通じて、「これからの百年を見据え、市民の皆さんにさらに建設業を理解してもらえ

る機会になれば」と期待を示した。

このあと、来賓の小野塚石狩振興局長が「地域の経済や雇用を支えているのが建設業。写真展を通じ、建設業を志す人が増えてくれれば」、吉岡札幌市副市長が「札幌市民の安全・安心は建設業の皆さんに支えられている。北海道新幹線の

札幌延伸などますますの力添えが必要」と祝辞。さらに、岩田会長と来賓の二人でテープカットを行いイベントの開会を祝った。

ブースには、厳しい現場条件で働く人たちの写真や、集中して作業に当たる様子をズームで撮った迫力のある作品など、約二百枚を展示。通りかかった市民が足を止め、興味深げに写真に見入っていた。

このほか、橋梁架設工事の3D映像によるバーチャル体験やパワショベルの遊具でビニールボールをすくう子供用イベントも開催され、賑わいをみせた。

なお、写真展はきょう十五日が最終日となり、札幌駅前通地下歩行空間の北一条イベントスペースで午前九時から午後一時まで行われている。